

サイエンスミュージアムネット

データ変換ツール  
利用者向けマニュアル

2022年3月

国立科学博物館

## 改版履歴

版	改版日付	改版内容	備考
1.0	2018/03/13	初版作成	インフォコム株式会社
1.1	2018/03/29	「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」修正	インフォコム株式会社
1.2	2018/05/11	全体を見直し修正	国立科学博物館
1.3	2018/06/20	「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」を一部修正	国立科学博物館
1.4	2018/11/07	Excel オプションの保存形式について補足を追加 トラブルシューティングに Visual Basic のエラー発生時の対応について追加	国立科学博物館
1.5	2018/11/27	Excel 形式の入力ファイルのフィルタについて補足を追加 トラブルシューティングに環境情報の提供依頼と報告済みのエラーの情報を追加	国立科学博物館
1.6	2019/01/15	トラブルシューティングに Visual Basic コンパイルエラーの情報を追加	国立科学博物館
1.7	2019/01/25	「3.トラブルシューティング」に「3.1.4 その他のトラブル」を追加	国立科学博物館
1.8	2019/02/06	トラブルシューティングに拡張子が大文字の入力ファイルに対する警告の情報を追加	国立科学博物館
1.9	2020/02/06	トラブルシューティングに入力ファイル項目名が S-Net 項目名と異なると形式が正しくないという警告となる情報を追加	国立科学博物館
1.10	2020/06/30	「2 データ変換ツールを利用する」に説明を追加 「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」にデータ型と補足説明を追加	国立科学博物館
1.11	2021/06/30	データ検証の改修に伴い、「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」の説明を加筆・修正 「2.3 変換元データを用意する」に説明を追加 「3. トラブルシューティング」に既知の原因を追加	国立科学博物館

2.00	2022/03/30	<p>データ変換ツールバージョン 2.00 への更新に伴い、以下を修正</p> <p>「1.1 目的」更新  「1.3 利用要件」を追記  「2.データ変換ツールを利用する」全体的に過去のバージョンとの互換性について追記  「2.4 マッピング（データ項目の割り当て）する」の実行処理完了時の表示メッセージ変更に伴い、画面キャプチャ修正  「2.4 マッピング（データ項目の割り当て）する」、「2.5 データクリーニング」、「2.6 データ検証」に処理中に終了時間の目安がメッセージ表示される旨を追記  「2.7 データ変換における注意事項」を「1.3 利用要件」追記に伴い削除  「3.トラブルシューティング」過去のバージョンでのみ発生していたエラーについて削除  「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」に以下追加項目を追加  ・機関登録 ID  ・コレクション登録 ID  ・ジャパンサーチ公開フラグ  ・正規化学名  ・正規化和名  「5.1 エラーメッセージ一覧」にエラーメッセージの一覧を追記</p>	インフォコム株式会社
------	------------	--	------------

## 目次

1	はじめに.....	5
1.1	目的.....	5
1.2	全体の流れ.....	5
1.3	利用要件.....	5
2	データ変換ツールを利用する.....	6
2.1	データ変換ツールについて.....	6
2.2	データ変換ツールをインストールする.....	6
2.3	変換元データを用意する.....	7
2.4	マッピング(データ項目の割り当て)する.....	8
2.5	データクリーニング.....	11
2.6	データ検証.....	12
3	トラブルシューティング.....	14
3.1	各種トラブルと対処法.....	14
3.1.1	メッセージレベルが「警告(MW~:)」の場合.....	14
3.1.2	メッセージレベルが「エラー(ME~:)」の場合.....	15
3.1.3	Visual Basic のエラーが発生した場合.....	15
3.1.4	その他のトラブル.....	17
4	その他.....	18
4.1	S-Net 形式のデータ項目について.....	18
5.	付録.....	28
5.1	エラーメッセージ一覧.....	28

# 1 はじめに

## 1.1 目的

データ変換ツールは、保有しているデータを S-Net システム対応の項目に変換するためのツールです。  
データ変換ツールでは、S-Net システム対応項目への変換に加え、データクリーニング及びデータフォーマットのチェックも同時に行います。

また、本マニュアルはデータ変換ツールバージョン 2.00 以降を対象としています。  
バージョン 2.0 では形式が変更されました。そのため、バージョン 1.29 以前で作成した登録データは、新バージョンでの再マッピングが必要となります。

## 1.2 全体の流れ

データ変換までの流れは以下の通りになります。

1. データ変換ツールをインストールします。
2. 変換元データを用意します。
3. データ変換ツールで、S-Net システム対応の項目へマッピングを行います。
4. データ変換ツールでデータの変換を行います。

## 1.3 利用要件

- Windows10、Microsoft Excel2016 をご利用ください。  
※MacOS では動作しません。
- データ変換ツールを使用する際は、Excel の保存形式のオプションは「Excel ブック (\*.xlsx) 」としてください。  
Excel97-2003 ブック (\*.xls) など他の形式の場合は処理が正しく行われません。

## 2 データ変換ツールを利用する

### 2.1 データ変換ツールについて

データ変換ツールでは、既に保有しているデータを S-Net 形式のデータに変換することができます。  
データ変換ツールで提供する主な機能は以下の通りです。

機能	説明
データマッピング（データ項目の割り当て）機能	標本データを S-Net 形式のデータに変換します。 ※データ変換前に、データクリーニングとデータ検証を行います。
データクリーニング機能	データクリーニングでは以下の処理を行います。 ・各項目のデータ前後にある半角・全角スペース、タブ、改行コードの削除 ・半角カナを全角カナに変換 ・半角英数字指定のフィールドに全角英数字・記号・スペースが存在した場合、対応する半角文字に変換 ・データ内に挿入されている改行記号・タブ文字を半角スペースに変換 ・連続するスペースを 1 文字のスペースに変換
データ検証機能	各項目が S-Net システムの形式のフォーマットかどうか、値の範囲が正しいかなどをチェックします。エラーが検出された場合は、エラー項目が赤でマーキングされ、エラー件数とエラー内容が付加されたデータ検証レポートが出力されます。

データ変換ツールでは Excel ブック (\*.xlsx) 形式でファイルを書き出します。変換ツールの実行前に Excel のオプションで保存形式が「Excel ブック (\*.xlsx)」であることを確認しておいてください。保存形式が「Excel97-2003 ブック (\*.xls)」など異なる形式の場合はエラーになってしまいます。

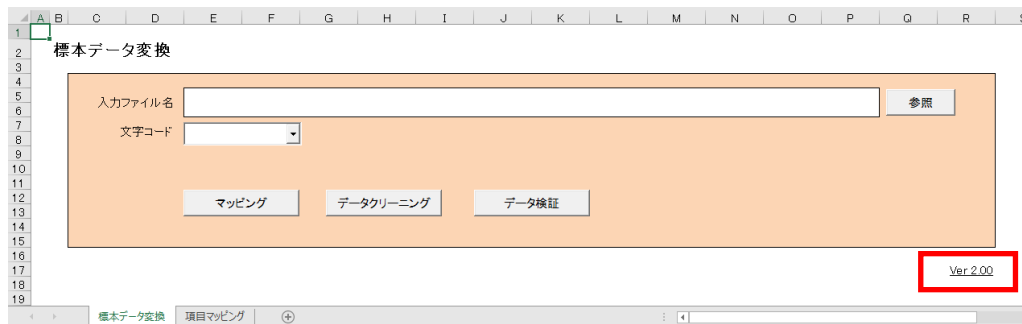
### 2.2 データ変換ツールをインストールする

データ変換ツール「データ変換ツール.xlsm」を S-Net サイト (<http://science-net.kahaku.go.jp>) からダウンロードします。

以前にインストールしている場合もバージョンを確認し、なるべく最新のバージョンのツールをご利用ください。

なお、S-Net のファイル形式が変更され、バージョン 1.29 以前のツールとは互換性がなくなりましたので、バージョン 2.00 以降をご利用ください。

ローカル PC の適当なフォルダへ配置します。



## 2.3 変換元データを用意する

変換元のデータを以下のフォーマットで用意する必要があります。

フォーマット情報	フォーマットの説明
ファイル形式（拡張子）	Excel ブック（.xlsx）、カンマ区切り（.csv）
文字コード	UTF-8、Shift-JIS
先頭行	項目名
2 行目以降	データ行（1 行 1 標本）

※1 ファイル 1 データセットとしてください。

※変換元のデータの項目名は任意ですが、S-Net システム登録用の項目名と同じ名前にするとデータ変換ツールで自動的に初期マッピング（データ項目の割り当て）が行われます。

※S-Net システム登録用のデータフォーマットについては「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」を参照してください。

※変換元のデータが Excel ブック形式（.xlsx）のとき、フィルタを使った絞り込みが行われているとマッピングの実行でエラーとなります。Excel の並べ替えとフィルタから「クリア」を選択して、フィルタによる絞り込みを解除しておいてください。

※変換元データが Excel ブック形式（.xlsx）の場合、エクセルの操作中に列や行が増えてファイルが予期せず大きくなることがあります。データの最後の列、最後の行をチェックし、余分な列や行が含まれていないことをご確認ください。

※変換元データのファイルのファイル名や上位のフォルダ名に環境依存文字や Windows 以外のコードの文字が含まれているとファイルを読み込むことができません

※変換元データのフォルダ名を含むファイルのパスは 256 文字以内である必要があります。

※変換元データファイルがネットワークドライブ上にあるとデータ変換ツールの動作が不安定になることがあります。変換元データはデータ変換ツールを動かす PC 上にご用意ください。

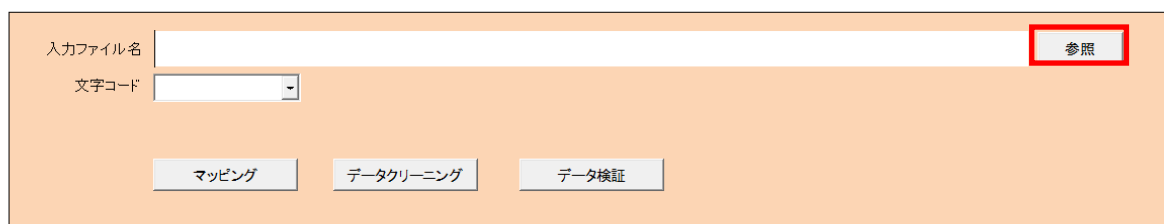
※変換元データは、バージョン 2.00 以降のデータ変換ツールでもバージョン 1.29 以前のものをそのままご利用いただけます。

## 2.4 マッピング（データ項目の割り当て）する

マッピングとは、元のファイルのどの項目が提出用ファイルのどのデータ項目に当たるのかを割り当てる作業です。この対応情報はデータ変換ツールの xism ファイル上に記録されます。インストールした「データ変換ツール.xism」をコピーして名前を変更し、変換元データごとに決めた専用のデータ変換ツールファイルを用意してください（たとえば、「データ変換ツール\_植物コレクション用.xism」など）。変換元データ用のデータ変換ツールをダブルクリックすることで、変換ツールが起動します。

- ① 標本データ変換画面：「参照」ボタンをクリックします。

標本データ変換

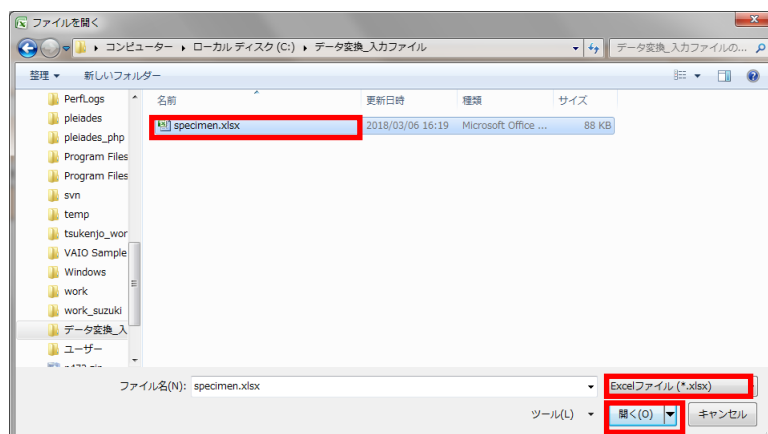


入力ファイル名  参照

文字コード

マッピング      データクレンジング      データ検証

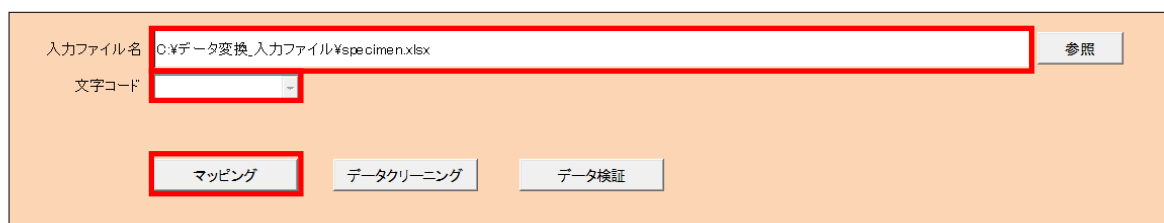
- ② ファイルダイアログ：ファイルを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



- ③ 選択したファイル名が反映される。文字コードを選択して、「マッピング」ボタンをクリックします。

※Excel ファイル（.xlsx）を選択した場合は、文字コードの選択は不要です。

標本データ変換



入力ファイル名 C:\データ変換\_入力ファイル\specimen.xlsx 参照

文字コード

マッピング      データクレンジング      データ検証



#### ④ 項目マッピング画面：初期表示

S-Net 項目名と入力ファイル項目名が一致した場合は、「入力ファイル項目名」へ項目名が自動的に設定されます。

一致しない場合は、手動でマッピングします。

※手動マッピングの方法：「入力ファイル項目名」のプルダウンメニューから S-Net 項目名に該当する項目名を選択します。

項目マッピング

<b>実行</b>	マッピング処理を実行し、S-Net形式のファイルを作成します。	<b>表示</b>	非表示となっている項目を全て表示します。
<b>設定保存</b>	現在のマッピング情報を保存します。	<b>非表示</b>	表示項目に○が付いていない項目を非表示にします。
<b>設定読み込み</b>	保存したマッピング情報を読み込みます。	状態: 表示 <span style="float: right;">赤字: マッピング必須項目</span>	

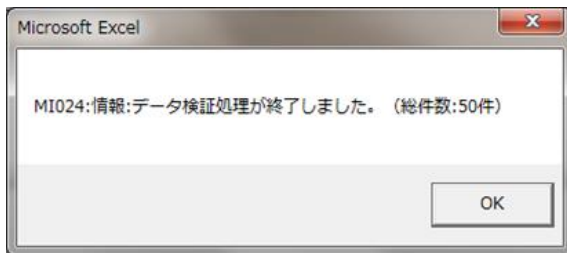
  

分類	S-Net項目名	データ型	項目説明	入力ファイル項目名	値の直接入力	表示項目
システム管理情報	管理ID	整数		管理ID		○
システム管理情報	データセット管理番号	整数		データセット管理番号		○
システム管理情報	登録日時	日時		登録日時		○
システム管理情報	更新日時	日時		更新日時		○
システム管理情報	グローバルユニーク番号	文字列(半角英数字)		グローバルユニーク番号		○
基本情報	データ登録日時	日時		データ登録日時		○
基本情報	GBIF公開フラグ	論理(真偽)型		GBIF公開フラグ	▼	○
基本情報	レコード種別	文字列(半角英数字)		直接入力		○
基本情報	機関名	文字列(日本語可)		機関名		○
基本情報	機関名(日本語)	文字列(日本語可)		機関名(日本語)		○
基本情報	機関コード	文字列(半角英数字)		機関コード		○
基本情報	コレクションコード	文字列(半角英数字)		コレクションコード		○
基本情報	カタログ番号	文字列(半角英数字)		カタログ番号		○
オカレンス情報	採集者番号	文字列(半角英数字)		採集者番号		○
オカレンス情報	オカレンス備考	文字列(半角英数字)		オカレンス備考		○
オカレンス情報	オカレンス備考(日本語)	文字列(日本語可)		オカレンス備考(日本語)		○
オカレンス情報	性別	文字列(半角英数字)		性別		○
オカレンス情報	性別(日本語)	文字列(日本語可)		性別(日本語)		○
オカレンス情報	生活型・世代型	文字列(半角英数字)		生活型・世代型		○
オカレンス情報	生活型・世代型(日本語)	文字列(日本語可)		生活型・世代型(日本語)		○
オカレンス情報	成熟状況	文字列(半角英数字)		成熟状況		○
オカレンス情報	成熟状況(日本語)	文字列(日本語可)		成熟状況(日本語)		○

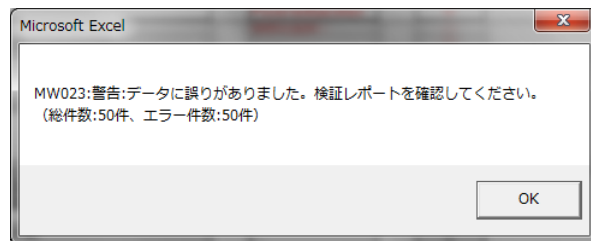
#### 項目マッピング画面：各ボタンの説明

No	機能	内容
1	「実行」ボタン	現在のマッピング情報を基に S-Net 形式ファイルを作成します。 ※実行後「データクリーニング」と「データ検証」が自動的に行われます。データのフォーマット等に問題があった場合は検証レポートが出力されます。
2	「設定保存」ボタン	現在のマッピング情報を保存します。 ※次回以降変換ツールを利用される場合、変換ツールのファイルを保存することによって、設定したマッピング情報を再度利用することが可能です。
3	「設定読み込み」ボタン	保存したマッピング情報を読み込みます。
4	「表示」ボタン	非表示となっている項目を全て表示します。
5	「非表示」ボタン	表示項目に○が付いていない項目を非表示にします。

- ⑤ 「実行」ボタンクリック後、データクリーニングとデータ検証が行われ、（エラーデータなしの場合）S-Net 形式の登録データファイルに変換されて、完了メッセージが出力されます。  
完了メッセージの出力後、登録データを保存できます。



- ⑥ 「実行」ボタンクリック後、データクリーニングとデータ検証が行われ、（エラーデータありの場合）検証レポートが作られ、エラー情報のメッセージが出力されます。  
エラー情報メッセージの出力後、検証レポートが保存できます。



※「実行」は、データクリーニング、データ検証、マッピング処理ごとにデータ件数に応じて時間がかかります。それぞれ以下の処理時間が目安となります。

- ・100 件以下：数秒
- ・1000 件以下：数分
- ・10000 件以下：数十分
- ・10000 件以上：数十分以上

例) : 検証レポート出力例

エラー件数	エラー内容	管理ID	データセット管理番号	登録日時	更新日時	メッセージコード	緯度(十進数表記)	経度(十進数表記)	測地系	緯度経度誤差半長	緯度経度特定に関する備考
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	151	251	GbdaticQ	101	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	152	252	GbdaticQ	102	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	153	253	GbdaticQ	103	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	154	254	GbdaticQ	104	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	155	255	GbdaticQ	105	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	156	256	GbdaticQ	106	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	157	257	GbdaticQ	107	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	158	258	GbdaticQ	108	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	159	259	GbdaticQ	109	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	160	260	GbdaticQ	110	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	161	261	GbdaticQ	111	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	162	262	GbdaticQ	112	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	163	263	GbdaticQ	113	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	164	264	GbdaticQ	114	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	165	265	GbdaticQ	115	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	166	266	GbdaticQ	116	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	167	267	GbdaticQ	117	Georeferen
2	MM019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MM019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	168	268	GbdaticQ	118	Georeferen

※1

※2

※3

No	内容
1	レコード別にエラー件数が出力されます。
2	レコード別にエラーの内容が出力されます。
3	エラーデータのセルが赤色の背景色で表示されます。

⑦ 検証したレポートをもとにして、データをチェックしてください。

なお、変換ツールでチェックできるのは、データ形式の間違い（半角数字の項目に全角文字が使用されている、など）や値の範囲の誤りなどのエラーに限られます。学名などの文字列データの項目において、綴りが間違っている、カタカナ表記にひらがなの文字が混在しているなどのエラーは検出できませんので、これらの項目のエラーについては、自己責任で管理をお願いします。

※エラーメッセージについては「5.1 エラーメッセージ一覧」を参照ください。

## 2.5 データクリーニング

データクリーニングでは、S-Net 形式のファイル（データ変換後の登録データの形式のファイル）に対し、各項目から余分な空白やタブなどを取り除くなどのデータのクリーニング処理を個別に行うことができます。

マッピングで出力された登録データファイルに対し変更を加えた場合には、余分な空白が増えている可能性もあります。この機能を実行すると確実にデータをクリーニングできます。なお、変更後に再度、マッピングを行う場合はマッピングでデータクリーニングとデータ検証が行われますので、個別に行う必要はありません。

※データ変換ツールバージョン 2.00 では S-Net 形式が変更されています。バージョン 1.29 以前のデータ変換ツールで作成した旧形式の登録データをクリーニングしたい場合は、旧形式の登録データを入力ファイルにして、マッピングを行い、作成された新形式の登録データファイルをクリーニングしてください。

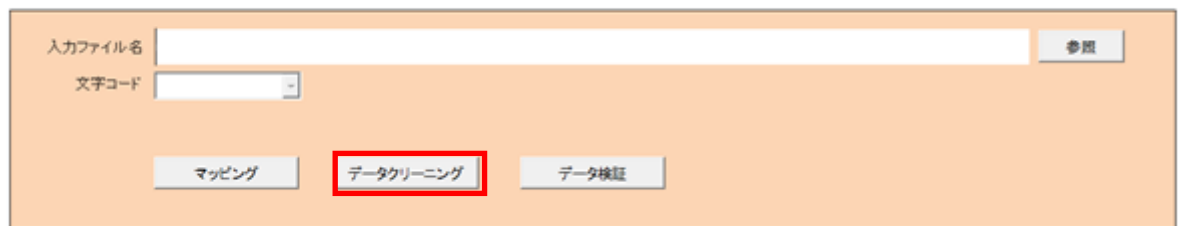
※データクリーニングで行われる処理については、「2.1 データ変換ツールについて」を参照してください。

① 標本データ変換：「データクリーニング」ボタンをクリックします。

※「データクリーニング」は、データ件数に応じて時間がかかります。以下の処理時間が目安となります。

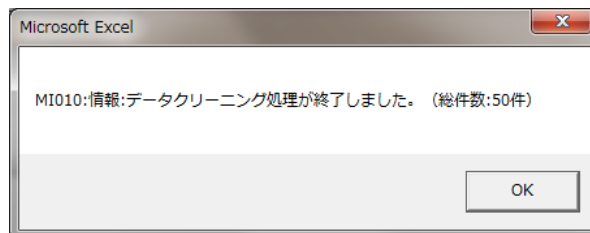
- ・100 件以下：数秒
- ・1000 件以下：数分
- ・10000 件以下：数十分
- ・10000 件以上：数十分以上

標本データ変換



② ファイル出力（データクリーニング済）

完了メッセージが出力され、クリーニング済みのファイルが出力されます。



## 2.6 データ検証

データ検証では、S-Net 形式のファイル（データ変換後の登録データの形式のファイル）に対し、各項目が S-Net システムの形式のフォーマットかどうか、値の範囲が正しいかなどをチェックするデータ検証を個別に行うことができます。

この機能はマッピングで出力された登録データファイルに対し変更を加えた場合、新たにエラーとなった項目がないかどうかチェックするのに有効です。なお、変更後に再度、マッピングを行う場合はマッピングでデータクリーニングとデータ検証が行われますので、個別に行う必要はありません。

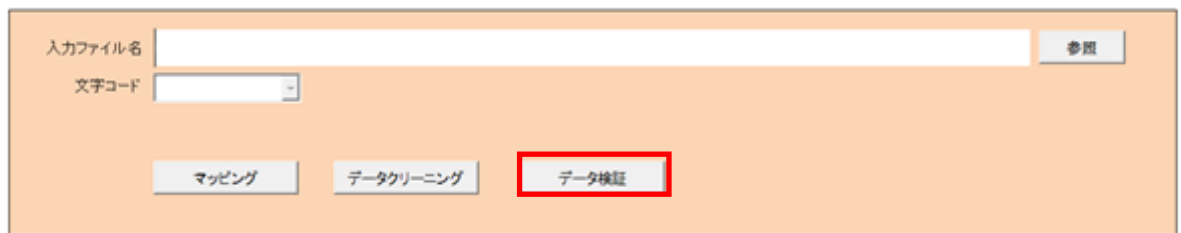
※データ変換ツールバージョン 2.00 では S-Net 形式が変更されています。バージョン 1.29 以前のデータ変換ツールで作成した旧形式の登録データを検証したい場合は、旧形式の登録データを入力ファイルにして、マッピングを行い、作成された新形式の登録データファイルを検証してください。

① 標本データ変換画面：「データ検証」ボタンをクリックします。

※「データ検証」は、データ件数に応じて時間がかかります。以下の処理時間が目安となります。

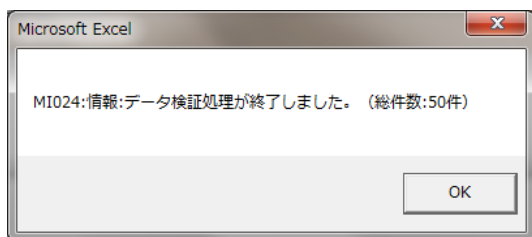
- ・100 件以下：数秒
- ・1000 件以下：数分
- ・10000 件以下：数十分
- ・10000 件以上：数十分以上

#### 標本データ変換



② ファイル出力（データ検証済）

完了メッセージが出力され、エラーがある場合は検証レポートが出力されます。



検証レポートの内容については、「2.4 マッピング（データ項目の割り当て）する」の⑥を参照してください。

## 3 トラブルシューティング

### 3.1 各種トラブルと対処法

本ツール使用時にエラーメッセージが出力された場合は、以下の対処をしてください。

※エラーメッセージについては「[5.1 エラーメッセージ一覧](#)」を参照ください。

#### 3.1.1 メッセージレベルが「警告 (MW～:)」の場合

たとえば、標本データ変換画面で、CSV ファイルを選択し、文字コードを選択せずに「マッピング」ボタンをクリックすると、警告メッセージ「MW004:警告:文字コードを選択してください。」が出力されます。この場合、文字コードを選択して、「マッピング」ボタンをクリックしてください。

メッセージレベルが「警告」であれば、メッセージ内容に従い、再実行すれば処理は継続されます。

なお、次の原因で警告が出るのが現在までに報告されています。もし、状況が同じ場合は対応策により解決できます。

**原因 1**：入力ファイルの項目名が S-Net 形式の項目名と異なる場合に警告メッセージ「MW020」が出力されることがあります。たとえば、「タイプ標本種別」の入力ファイル項目名に「type\_info」を指定してマッピングを行ったとき、「Paratype」のような正しいタイプ標本種別を指定しても「MW020:警告:タイプ標本種別 正しい形式で入力してください。」というエラーがでます。（Ver 1.17 以前のバージョンのデータ変換ツールで発生）。

【対応】最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。

※データ変換ツールのバージョンは最初の画面の右下でご確認いただけます。

標本データ変換

入力ファイル名  参照

文字コード

マッピング データクリーニング データ検証

Ver 2.00

### 3.1.2 メッセージレベルが「エラー (ME～:)」の場合

エラーメッセージ「ME～:エラー:～。システム管理者に連絡してください。」が出力されましたら、動作環境の情報とエラーが発生したファイルを下記の連絡先まで、お送りください。

【本ツールについての連絡先】

独立行政法人国立科学博物館 S-Net/GBIF 担当

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

E-mail : s-net\_info [at] kahaku.go.jp ([at] を@に変えてください)

#### 動作環境

- ・OSの種類 例:Windows
- ・OSのバージョン (ビット数含む) 例:7 professional(64)
- ・メモリ容量 例:8G
- ・Excelのバージョン  
例:Microsoft Office Professional 2010 バージョン:14.0.7214.5000(32ビット)
- ・データ変換ツールのバージョン 例:Ver 2.00 ※確認方法は前ページを参照

なお、次の原因でエラーが起こることが現在までに報告されています。もし、状況が同じ場合は対応策により解決できます。

**原因 1 :** 入力ファイルが Excel ブック形式 (.xlsx) でフィルタを使った絞り込みが行われている。

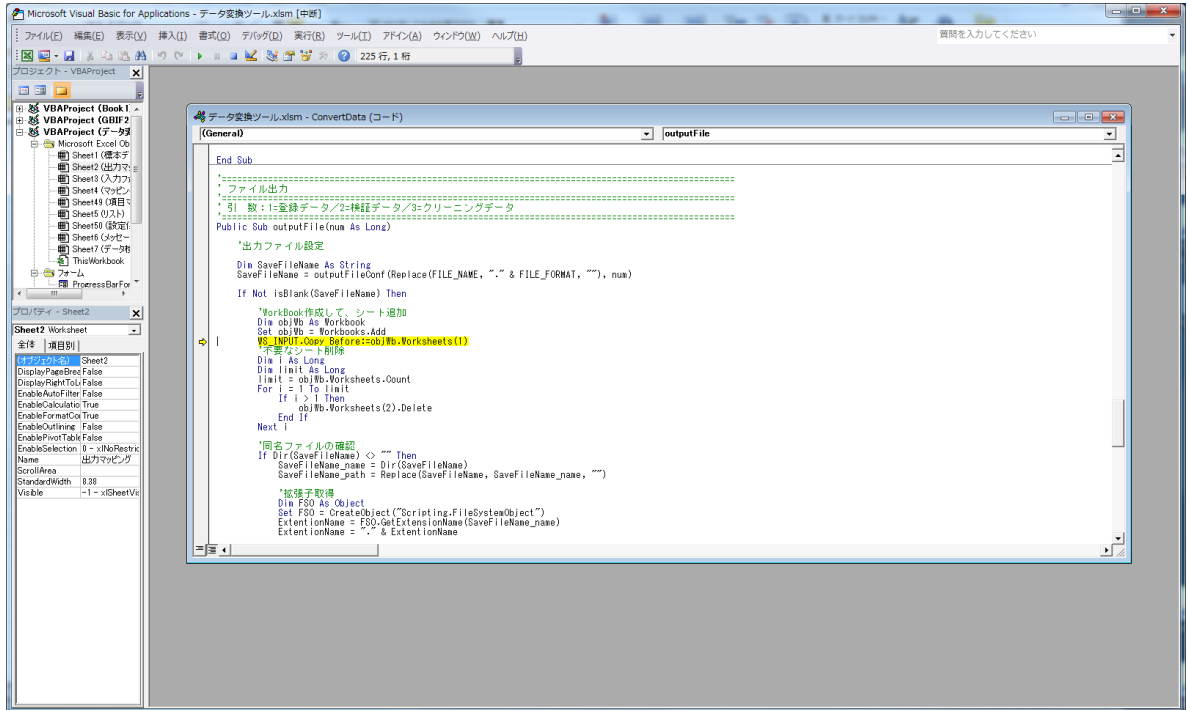
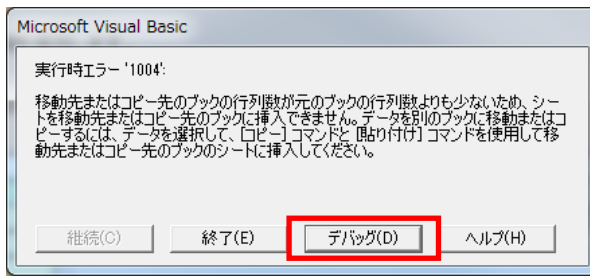
【対応】 Excel メニューの「並べ替えとフィルタ」から「クリア」を選択して、フィルタによる絞り込みを解除してください。

**原因 2 :** 入力ファイルのファイル名や上位のフォルダ名に環境依存文字や Windows 以外のコードの文字が含まれている。

【対応】 ファイル名や上位のフォルダ名を英字などの単純なものに変更してください。

### 3.1.3 Visual Basic のエラーが発生した場合

データ変換ツールは Microsoft Visual Basic というツールを使って開発されています。次のような Visual Basic のエラーメッセージが表示された場合は、「デバッグ」ボタンを選択し、表示された Visual Basic の画面のスクリーンショットを動作環境の情報とエラーの番号の情報とともに上記の連絡先まで、お送りください。



[Alt] + [Print Screen/SysRq] キーを押せばアクティブな画面のスクリーンショットがクリップボードにコピーされますので、Microsoft Word や Excel に貼り付けてファイルをお送りください。



また、次の原因でも Visual Basic エラーが起こることが現在までに報告されています。もし、状況が同じ場合は対応策により解決できます。

**原因 1：** Excel のオプションで保存形式が「Excel97-2003 ブック (\*.xls) 」など Excel ブック (\*.xlsx) 以外の形式が指定されている。

【対応】 オプションの保存形式を「Excel ブック (\*.xlsx) 」に変更してデータ変換ツールを実行してください。

**原因 2：** 入力ファイルにネットワークドライブ上のファイルを指定している。

【対応】 ネットワークドライブ上のファイルを用いると、動作が不安定になったり、登録データや検証データファイルにデータ変換ツールの画面のようなものが出力されたりすることがあります。入力ファイルはデータ変換ツールを動かす PC 上のものをお使いください。

### 3.1.4 その他のトラブル

**状況 1：** 入力ファイルに Mac 環境のファイルシステムで作成されるファイルを指定して「マッピング」を行うと、「ファイルが見つかりません」というエラーになることがあります（Ver 1.11 以前のバージョンのデータ変換ツールで発生）。

【対応】最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。

**状況 2：** マッピング、データクリーニングなどの処理が時間かかりなかなか終わらない。

【対応】 入力ファイルが Excel ブック形式 (.xlsx) の場合、エクセルの操作中に列や行が増えてファイルが予想せず大きくなっていることがあります。データの最後の列、最後の行をチェックし、余分な列や行が含まれている場合はその部分を削除してから、処理を再実行してください。

## 4 その他

### 4.1 S-Net 形式のデータ項目について

S-Net システムで変換後に出力されるデータ項目は以下の通りです。

※データ変換ツールバージョン 2.00 以降では No.174～178 の 5 項目が追加され、バージョン 1.29 までの S-Net 形式とは互換性がなくなっています。ただし、これらの項目は入力ファイルで指定する必要はないため、入力ファイルはこれまでの形式のままお使いいただけます。

データ形式の「文字列・半」は半角英数字の文字列、「文字列・日」は日本語入力可の文字列です。

それぞれの項目のデータ形式と値を確認し、正しい値を入力してください。

必須でない項目でデータがない場合は「-」、「\*」、「N/A」、「0」などを入れずに空欄としてください。

また、レコード種別、界名など決められた文字列のどれかを指定するものは、大文字・小文字、全角・半角を区別して正確に入力するようにお願いします。

なお、すでに S-Net システムで公開されている機関やデータセットの情報は S-Net サイト

(<http://science-net.kahaku.go.jp>) の「機関・データセット一覧」からご確認いただけます。

No	項目名	必須	データ形式	値
システム管理情報				
1.	管理 ID		整数	システム管理用項目
2.	登録日時		日時	システム管理用項目
3.	更新日時		日時	システム管理用項目
4.	データセット管理番号		文字列・半	システム管理用項目
5.	グローバルユニーク番号		文字列・半	システム管理用項目
基本情報				
6.	データ登録日時		日時	S-Net/GBIF 事務局管理用項目
7.	GBIF 公開フラグ ※2021 年 6 月現在、「1 : GBIF で公開する」のみが指定できます。GBIF での非公開を希望される場合は事務局にご相談ください。	○	論理（真偽）型	0 : GBIF で公開しない、1 : GBIF で公開する（既定値）
8.	レコード種別 ※2021 年 6 月現在、「PreservedSpecimen」と「FossilSpecimen」のみが指定できます。	○	文字列・半	PreservedSpecimen、FossilSpecimen、LivingSpecimen、HumanObservation、MachineObservation、MaterialSample、Occurrence のいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力

9.	機関名 ※S-Net サイトの機関情報を確認し、同じ英語の名称を大文字、小文字の区別を含め正しく指定してください。	○	文字列・半	機関名の英文名称（例：National Museum of Nature and Science）
10.	機関名（日本語） ※S-Net サイトの機関情報を確認し、同じ和文の名称を正しく指定してください。	○	文字列・日	機関名の和文名称（例：国立科学博物館（植物））
11.	機関コード ※S-Net サイトの機関情報を確認し、同じ機関コードを大文字、小文字の区別を含め正しく指定してください。	○	文字列・半	標本の機関コード（例：TNS、NMST、KPM）
12.	コレクションコード ※S-Net サイトのデータセット情報を確認し、同じコレクションコードを大文字、小文字の区別を含め正しく指定してください。	○	文字列・半	標本のコレクションコード（例：VS、F、AL）。コレクションコードが未設定の機関では、機関コードを入れる
13.	カタログ番号	○	文字列・半	標本番号（例：153801、A1-0027）
オカレンス情報				
14.	採集者番号		文字列・半	採集者によるオリジナルの標本番号
15.	オカレンス備考		文字列・半	標本等に関する補足説明（例：found dead on the road）
16.	オカレンス備考（日本語）		文字列・日	標本等に関する補足説明（例：路上轢死体）
17.	性別		文字列・半	例：male, female
18.	性別（日本語）		文字列・日	例：オス、メス、♂、♀
19.	生活型・世代型		文字列・半	個体のライフステージ（例：juvenile, adult, sporophyte）
20.	生活型・世代型（日本語）		文字列・日	例：幼虫、成虫、孢子体
21.	成熟状況		文字列・半	例：pregnant, in bloom, fruit-bearing
22.	成熟状況（日本語）		文字列・日	例：妊娠中、開花中、結実中
23.	行動		文字列・半	採集時の個体の振る舞い（例：roosting, foraging, running）
24.	行動（日本語）		文字列・日	例：ねぐらに滞在、摂食中、走っていた
25.	生息環境		文字列・半	例：oak savanna, pre-cordilleran steppe
26.	生息環境（日本語）		文字列・日	例：ブナ林、海岸林
27.	個体群成立過程		文字列・半	例：native, introduced, invasive, naturalised, managed
28.	個体群成立過程（日本語）		文字列・日	例：土着、外来、侵略的外来、帰化、栽培、植栽
29.	処理・保存情報		文字列・半	例：fossil, cast, skin, spirit collection
30.	処理・保存情報（日本語）		文字列・日	例：化石、皮革、骨格、液浸
31.	カタログ旧番号・別番号		文字列・半	標本番号をつけ直す場合、以前の標本番号
32.	画像への外部リンク		文字列・半	ウェブ公開されている当該標本の画像自体へのリンク（URL）。直接リンク可能な場合のみ入力

33.	参照リンク		文字列・半	ウェブ公開されている当該標本情報の英語ページへのリンク (URL)
34.	参照リンク (日本語)		文字列・半	ウェブ公開されている当該標本情報の日本語ページへのリンク (URL)
35.	文献		文字列・半	当該標本に関する文献などの外国語資料 (当該種に関するものではない)
36.	文献 (日本語)		文字列・日	当該標本に関する文献などの日本語資料 (当該種に関するものではない)
37.	塩基配列		文字列・半	DNA シークエンスの DDBJ 等へのアクセッション番号
38.	関連分類群 (ホスト情報等)		文字列・半	寄主や共生パートナーなどに関する情報 (例: <i>Fagus crenata</i> )
39.	関連分類群 (ホスト情報等) (日本語)		文字列・日	寄主や共生パートナーなどに関する情報 (例: ブナ)
40.	過去の同定結果		文字列・半	過去の同定による学名。標本ラベルに書かれている学名が現在の学名と異なる場合などに記入
41.	過去の同定結果 (日本語)		文字列・日	過去の同定による和名。標本ラベルに書かれている和名が現在の和名と異なる場合になど記入
42.	サンプリング方法		文字列・半	例: UV light trap, mist net
43.	サンプリング方法 (日本語)		文字列・日	例: UV ライトトラップ、マレーズトラップ
44.	記録年月日 (始め) ※変換元データの年月日が複数の項目に分かれている場合は、複数の項目を結合してマッピングすることもできます。 ※2021年6月現在、1800年以前の日付とデータ変換の当日以降の日付はエラーとなります。1800年以前の場合にはご相談ください。			採集年月日 (始め) を YYYYMMDD 形式の 8 桁で指定 (例: 20140501)。不明な箇所は**で埋めて 8 桁に (例: 196708**)。ただし、年が不明の場合は月日も**"に (例: *****)、月が不明の場合は日も**"に (例: 1924****)。採集期間が 1 日だけの場合、記録年月日 (始め) に入れる
45.	記録年月日 (終わり) ※変換元データの年月日が複数の項目に分かれている場合は、複数の項目を結合してマッピングすることもできます。 ※2021年6月現在、1800年以前の日付とデータ変換の当日以降の日付はエラーとなります。1800年以前の場合にはご相談ください。			採集年月日 (終わり) を YYYYMMDD 形式の 8 桁で指定 (例: 20140531)。不明な箇所は**で埋めて 8 桁に (例: 196708**)。ただし、年が不明の場合は月日も**"に (例: *****)、月が不明の場合は日も**"に (例: 1924****)
46.	記録年月日オリジナル表記		文字列・日	記録年月日をラベルに書いてある通りに書き下したものを (例: 明治 26 年 1 月 23 日、1926 年 12 月、Feb 30, 1906、7.vii.1964)
47.	記録年月日に関する備考		文字列・半	年月日に関するコメント・特定方法等 (例: after the recent rains the river is nearly at flood stage)
48.	記録年月日に関する備考 (日本語)		文字列・日	年月日に関するコメント・特定方法等 (例: 宅地造成に先立って調査した)

位置情報				
49.	大陸		文字列・半	例：Africa, Antarctica, Asia, Oceania
50.	大陸（日本語）		文字列・日	例：アフリカ、南極、アジア、オセアニア
51.	水域		文字列・半	例：Indian Ocean, Baltic Sea、Hudson River
52.	水域（日本語）		文字列・日	例：インド洋、バルト海、ハドソン川
53.	島群		文字列・半	例：Alexander Archipelago
54.	島群（日本語）		文字列・日	例：アレキサンダー諸島
55.	島		文字列・半	例：Isla Victoria
56.	島（日本語）		文字列・日	例：ビクトリア島
57.	国 ※2021年6月から必須。	○	文字列・半	例：Japan 公海上や採集国が不明の場合は「-（半角ハイフン）」を指定。
58.	国（日本語） ※2021年6月から必須。	○	文字列・日	例：日本 公海上や採集国が不明の場合は「-（半角ハイフン）」を指定。
59.	国地域コード		文字列・半	国名のID。日本はJP。ISO 3166-1-alpha-2 country codes ( <a href="http://www.iso.org/iso/country_codes">http://www.iso.org/iso/country_codes</a> ) に従うことが推奨される（入力しなくてもいい）
60.	都道府県		文字列・半	例：Tokyo, Ibaraki, Kyoto 複数都道府県をまたぐ場合は「/（半角スラッシュ）」で区切って指定。例：Yamanashi/Kanagawa
61.	都道府県（日本語） ※2021年6月から63. 郡・市区町村（日本語）が入力されている場合は必須。		文字列・日	例：東京都、茨城県、京都府 複数都道府県をまたぐ場合は「/（全角スラッシュ）」で区切って指定。例：山梨県/神奈川県
62.	郡・市区町村		文字列・半	例：Saimtama
63.	郡・市区町村（日本語）		文字列・日	例：さいたま市
64.	詳細地名		文字列・半	
65.	詳細地名（日本語）		文字列・日	例：南区辻一丁目
66.	地名オリジナル表記		文字列・日	地名のラベル表記をそのまま書き下したもの (例：浦和市辻町一丁目（合併前の旧住所）、武蔵国)
67.	最低海拔 ※2021年6月から9000を超える値はエラー。		数値	メートル単位の数値（例：200, 2.25）。海拔に範囲がない場合、最低海拔だけに入れるか、最低海拔と最高海拔の両方に同じ値を入れる
68.	最高海拔 ※2021年6月から9000を超える値はエラー。		数値	メートル単位の数値（例：400, 10.2）。最低海拔≤最高海拔となること

69.	最浅水深 ※2021年6月から12000を超える値はエラー。		数値	メートル単位の数値（例：10, 1.5）。-（マイナス）は付けない。水深に範囲がない場合、最浅水深だけを入れるか、最浅水深と最深水深に同じ値を入れる
70.	最深水深 ※2021年6月から12000を超える値はエラー。		数値	メートル単位の数値（例：20, 4.22）。-（マイナス）は付けない。最浅水深≤最深水深となること
71.	メッシュコード ※2021年6月から桁数が4桁、6桁、8桁以外と全桁が0はエラー。		文字列・半	二次あるいは三次メッシュコード（ハイフンを除いて表記）（例：544020, 54402078）
72.	緯度（十進数表記） ※2021年6月から値が0はエラー。データなしの場合は空欄としてください。		数値	正の値は北半球（北緯）、負の値は南半球（南緯）。-90以上90以下。度+分/60+秒/3600で求められる。日本の場合、おおよそ20~46の範囲
73.	経度（十進数表記） ※2021年6月から値が0はエラー。データなしの場合は空欄としてください。		数値	正の値は東半球（東経）、負の値は西半球（西経）。-180以上、180以下。度+分/60+秒/3600で求められる。日本の場合、おおよそ123~154の範囲
74.	測地系 ※何も指定しないとGBIFでは「WGS84」とみなされます。		文字列・半	例：WGS84, EPSG4326, Tokyo, Tokyo Datum。緯度・経度が旧測地系（日本測地系）の場合はTokyoまたはTokyo Datumを指定
75.	緯度経度誤差半径		数値	緯度経度の誤差。誤差を中心からの円の大きさで表した時の半径（m）。地名やメッシュコードより推定した場合は地図上の誤差、GPSで測定した場合は機器の精度を用いて指定
76.	緯度経度特定に関する備考		文字列・半	標本採集地、観測地やその測定方法に関する補足説明（例：assumed distance by road (Hwy. 101)）
77.	緯度経度特定に関する備考（日本語）		文字列・日	標本採集地、観測地やその測定方法に関する補足説明（例：国道の位置から推定；オンライン地図を利用して推定；メッシュコードより推定；GPSにて測定）
78.	地名公開レベル ※2021年6月現在、「0：住所情報は全て公開」のみが指定できます。住所情報を非公開にする場合は、62~73の項目を削除するか、121~132の該当する非公開の項目に移してください。	○	数値（コード）	0：住所情報は全て公開（既定値）、1：市区町村情報まで公開、2：都道府県情報まで公開、3：住所情報は全て非公開
79.	非公開情報に関する備考		文字列・半	公開制限している情報に関する追記（例：location information not given for endangered species）

80.	非公開情報に関する備考（日本語）		文字列・日	公開制限している情報に関する追記（例：絶滅危惧種につき地名非表示；採集地保護のため地名非表示）
81.	位置情報に関する備考		文字列・半	例：Under water since 2005
82.	位置情報に関する備考（日本語）		文字列・日	例：2005 に水没
分類情報				
83.	タイプ標本種別		文字列・半	Allolectotype, Alloneotype, Allotype, Cotype, Epitype, Exepitype, Exholotype, Exisotype, Exlectotype, Exneotype, Exparatype, Exsyntype, Extype, Hapantotype, Holotype, Iconotype, Isolectotype, Istoneotype, Isosyntype, Isotype, Lectotype, Neotype, Notatype, Originalmaterial, Paralectotype, Paraneotype, Paratype, Plastoholotype, Plastoisotype, Plastolectotype, Plastoneotype, Plastoparatype, Plastosyntype, Plastotype, Secondarytype, Supplementarytype, Syntype, Topotype, Type のいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力
84.	タクソン ID ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・半	当面使用しない
85.	学名	○	文字列・半	該当標本の学名のフルスペル。属も不明の場合は、同定できた一番下の階級（目名、科名など）を書く（例：Aspergillus oryzae、Fagus sp.、Cornaceae、Coleoptera、Anas zonorhyncha x A. platyrhynchos）。雑種式は半角小文字の x（イクス）を使用
86.	カテゴリー ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・日	当面使用しない。
87.	界名（学名）	○	文字列・半	Viruses、Bacteria、Archaea、Protozoa、Chromista、Plantae、Fungi、Animalia のいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力
88.	界名（日本語名）	○	文字列・日	ウイルス界、真正細菌界、古細菌界、原生生物界、クロミスタ界、植物界、菌界、動物界のいずれか。全角文字で正確に入力
89.	門名（学名）		文字列・半	
90.	門名（日本語名）		文字列・日	
91.	綱名（学名）		文字列・半	
92.	綱名（日本語名）		文字列・日	
93.	目名（学名）		文字列・半	

94.	目名 (日本語名)		文字列・日	
95.	科名 (学名)		文字列・半	
96.	科名 (日本語名)		文字列・日	
97.	属名 (学名)		文字列・半	
98.	属名 (日本語名)		文字列・日	
99.	亜属名 (学名)		文字列・半	
100.	亜属名 (日本語名)		文字列・日	
101.	種小名		文字列・半	
102.	亜種以下のタクソン		文字列・半	亜種、変種、品種などの学名。ランク自体 (subspecies, variety 等) は「分類群ランク」に書く。複数ある場合には最も下位のランクを書く
103.	分類群ランク		文字列・半	学名 ScientificName に入力された分類群名の分類ランク (例: family, species, variety)
104.	学名の著者		文字列・半	学名の著者
105.	和名		文字列・日	標準和名をひとつだけ示す (例: ベニテングタケ、ナナホシキンカメムシ、イヌブナ、カルガモ×マガモ)。雑種式は全角の× (掛け算記号) を使用
106.	同定に関する補足情報		文字列・半	未同定の場合、近縁種等の情報を書く (例: cf., affinis)
107.	同定に関する補足情報 (日本語)		文字列・日	未同定の場合、近縁種等の情報を書く (例: チャハマキに近縁な別種)
108.	分類群に関する備考		文字列・半	生物分類名に関する補足情報 (例: this name is a misspelling in common use)
109.	分類群に関する備考 (日本語) ※和名の別名や異名はこの項目に記述		文字列・日	生物分類名に関する補足情報 (例: 広く使われている誤った綴りの学名)
参考情報				
110.	備考 1 (公開,日本語)		文字列・日	上記に適切な項目のない補足的情報
非公開情報				
111.	備考 2 (非公開,日本語)		文字列・日	公開しないが、データ変換後、データ保守・管理上、項目として残しておきたいものを記載 (例: ローカル ID、受入 ID、参照番号など)
112.	備考 3 (非公開,日本語)		文字列・日	同上
113.	採集・記録者(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
114.	採集・記録者 (非公開,日本語) ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
115.	水域(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 51.水域を参照。



116.	水域（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 52.水域（日本語）を参照。
117.	島群（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 53.島群を参照。
118.	島群（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 54.島群（日本語）を参照。
119.	島（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 55.島を参照。
120.	島（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 56.島（日本語）を参照。
121.	郡・市区町村（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 61.郡・市区町村を参照。
122.	郡・市区町村（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 62.郡・市区町村（日本語）を参照。
123.	詳細地名(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 63.詳細地名を参照。
124.	詳細地名(非公開)（日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 64.詳細地名（日本語）を参照。
125.	地名オリジナル表記(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 65.地名オリジナル表記を参照。
126.	最低海拔（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 66.最低海拔を参照。
127.	最高海拔（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 67.最高海拔を参照。
128.	最浅水深（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 68.最浅水深を参照。
129.	最深水深（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 69.最深水深を参照。
130.	メッシュコード（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 70.メッシュコードを参照。
131.	緯度（十進数表記）（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 71.緯度（十進数表記）を参照。
132.	経度（十進数表記）（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 72.経度（十進数表記）を参照。
古生物情報				
133.	上限の推定年代（累代・累界レベル）		文字列・半	例：Phanerozoic, Proterozoic
134.	上限の推定年代（累代・累界レベル）（日本語）		文字列・日	例：顕生代、原生代

135.	下限の推定年代（累代・累界レベル）		文字列・半	例：Phanerozoic, Proterozoic
136.	下限の推定年代（累代・累界レベル）（日本語）		文字列・日	例：顕生代、原生代
137.	上限の推定年代（代・界レベル）		文字列・半	例：Cenozoic, Mesozoic
138.	上限の推定年代（代・界レベル）（日本語）		文字列・日	例：新生代、中生代
139.	下限の推定年代（代・界レベル）		文字列・半	例：Cenozoic, Mesozoic
140.	下限の推定年代（代・界レベル）（日本語）		文字列・日	例：新生代、中生代
141.	上限の推定年代（紀・系レベル）		文字列・半	例：Neogene, Tertiary, Quaternary
142.	上限の推定年代（紀・系レベル）（日本語）		文字列・日	例：新第三紀、第三紀、第四紀
143.	下限の推定年代（紀・系レベル）		文字列・半	例：Neogene, Tertiary, Quaternary
144.	下限の推定年代（紀・系レベル）（日本語）		文字列・日	例：新第三紀、第三紀、第四紀
145.	上限の推定年代（世・統レベル）		文字列・半	例：Holocene, Pleistocene, Ibexian Series
146.	上限の推定年代（世・統レベル）（日本語）		文字列・日	例：完新世、更新世
147.	下限の推定年代（世・統レベル）		文字列・半	例：Holocene, Pleistocene, Ibexian Series
148.	下限の推定年代（世・統レベル）（日本語）		文字列・日	例：完新世、更新世
149.	上限の推定年代（階・期レベル）		文字列・半	例：Atlantic, Boreal, Skullrockian
150.	上限の推定年代（階・期レベル）（日本語）		文字列・日	
151.	下限の推定年代（階・期レベル）		文字列・半	例：Atlantic, Boreal, Skullrockian
152.	下限の推定年代（階・期レベル）（日本語）		文字列・日	
153.	生層序帯（最下位）		文字列・半	
154.	生層序帯（最下位）（日本語）		文字列・日	
155.	生層序帯（最上位）		文字列・半	
156.	生層序帯（最上位）（日本語）		文字列・日	
157.	岩相層序名		文字列・半	

158.	岩相層序名（日本語）		文字列・日	
159.	層群		文字列・半	
160.	層群（日本語）		文字列・日	
161.	層		文字列・半	例：Notch Peak Fromation, House Limestone, Fillmore Formation
162.	層（日本語）		文字列・日	
163.	部層		文字列・半	例：Lava Dam Member, Hellnmaria Member
164.	部層（日本語）		文字列・日	
165.	単層		文字列・半	
166.	単層（日本語）		文字列・日	
命名情報				
167.	オリジナルの学名		文字列・半	標本の学名に変更があった場合の元の学名
168.	原記載		文字列・半	原記載の文献情報（例：Pearson O. P., and M. I. Christie. 1985. Historia Natural, 5(37): 388）
169.	原記載出版年		文字列・半	例：1931、2018
170.	オリジナルの分類群ランク		文字列・半	原記載における学名の分類ランク（例：species, variety）
171.	命名規約		文字列・半	学名に基づいている命名規約（例：ICN、ICZN）
172.	分類学的ステータス		文字列・半	学名の分類学的解釈における扱い（例：accepted, heterotypicSynonym, misapplied）
173.	命名規約上のステータス		文字列・半	学名の命名規約上の扱い（例：ambigua, illegitimum）
新規追加項目（マッピング用の入力ファイルで指定する必要はありません）				
174.	機関登録 ID ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・半	システム管理用項目。GRSciColl 登録時に機関に付与される ID。
175.	コレクション登録 ID ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・半	システム管理用項目。GRSciColl 登録時に機関に付与される ID。
176.	ジャパンサーチ公開フラグ ※変換ツールでは非表示の項目	○	論理（真偽）型	0：ジャパンサーチで公開しない、1：ジャパンサーチで公開する ※2022年4月現在、「1：ジャパンサーチで公開する」が自動的に設定されます。
177.	正規化学名 ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・日	今後、学名の名寄せ結果を保存するための予約項目。当面使用しない。
178.	正規化和名 ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・日	今後、和名の名寄せ結果を保存するための予約項目。当面使用しない。

## 5. 付録

### 5.1 エラーメッセージ一覧

メッセージ ID	エラーメッセージ	備考
ME001	ファイル選択処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
MW002	入力ファイル名を選択してください。	
MW003	拡張子が「xlsx」、「csv」のファイルを選択してください。	
MW004	文字コードを選択してください。	
ME005	ファイル読み込み処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
ME006	マッピング処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
ME008	データクリーニング処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
ME009	ファイル出力処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
ME011	データ検証処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
ME012	検証レポート作成処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
MW013	(データ項目名) 必須項目を入力してください。	
MW014	(データ項目名) 半角英数字を入力してください。	
MW015	(データ項目名) 数値を入力してください。	
MW016	(データ項目名) 日付を入力してください。	
MW017	(データ項目名) XX 桁以内で入力してください。	
MW018	(データ項目名) XX 桁以上 YY 桁以内で入力してください。	
MW019	(データ項目名) XX 以上 YY 以内で入力してください。	
MW020	(データ項目名) 正しい形式で入力してください。	
MW021	(データ項目名) 重複しています。正しく入力してください。	
ME022	ファイル出力処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
MW023	データに誤りがありました。検証レポートを確認してください。(総件数:XX 件、エラー件数:YY 件)	
ME025	マッピング情報保存処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	

ME027	マッピング情報読み込み処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
ME029	S-Net 項目名表示処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
ME030	S-Net 項目名非表示処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。	
ME031	指定されたファイルが見つかりませんでした。	
MW032	入力必須項目がマッピングされていません。	
MW033	(データ項目名) の値の直接入力欄に設定値を入力してください。	
MI034	保存された設定がありません	
MW037	入力ファイルは S-Net 形式ではありません。	
MW042	(データ項目名) 結合の結果が正しい日付となるように入力してください。	
ME043	マッピング情報を保存したときの入力ファイル項目名が入力ファイル上にありません。入力ファイルを確認するか、項目のマッピングをやり直してください。	
MW044	(データ項目名) 0 以外の数値を入力してください。	
MW045	(データ項目名) 4 桁、6 桁、8 桁のいずれか、全桁が「0」以外で入力してください。	
MW046	(データ項目名) 「記録年月日 (終わり)」は「記録年月日 (始め)」以降で入力してください。	
MW047	(データ項目名) 「郡・市区町村 (日本語)」が入力されている場合は「都道府県 (日本語)」を入力してください。	
MW048	(データ項目名) 「最高海拔」は「最低海拔」以上で入力してください。	
MW049	(データ項目名) 「最深水深」は「最浅水深」以上で入力してください。	
MW050	(データ項目名) 「国 (日本語)」が「日本」または「日本国」の場合は 10 から 50 の間で入力してください。	
MW051	(データ項目名) 「国 (日本語)」が「日本」または「日本国」の場合は 100 から 160 の間で入力してください。	